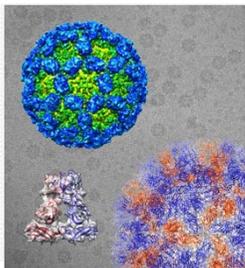


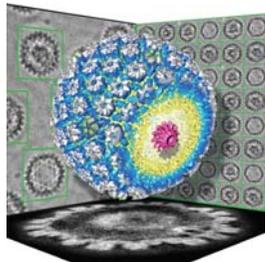
位相差クライオ透過電子顕微鏡 (JEOL 2200FS+Zernike Phase plate) を用いた研究支援を行う。解析手法としては、高分解能電顕像の撮影に加えて、単粒子解析、電顕トモグラフィーにより、試料の三次元構造解析を行う。支援の内容としては、試料作製から、画像データ収集、画像処理、立体再構成、セグメンテーション、ムービー等の作成までを含む。担当者と相談の上、必要な部分の支援を行う。



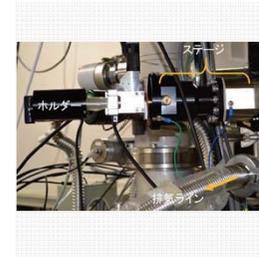
クライオ電顕単粒子解析による
サポウイルスの8Å分解能構造
とホモロジーモデリング
(Miyazaki et al. J. Virol. 2016)



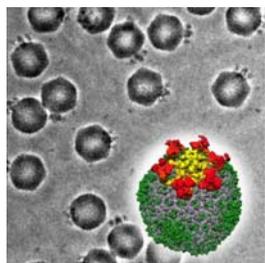
クライオ透過電子顕微鏡 (JEOL 2200FS+Gatan 914 cryo-specimen holder)。生の生物試料の高分解能電顕像を記録する。



位相差クライオ電顕単粒子解析によるヘルペスウイルスのポータル構造
(Rochat et al. J. Virol. 2010)



エアロック式位相板ホルダー。電顕用位相板は、無染色試料に高い位相コントラストをつける。



バクテリオファージ ϵ 15 のクライオ位相差電顕像と立体再構成像
(Murata et al. Structure 2010)。



急速凍結装置 (FEI Vitrobot Mark IV)。生の生物試料を急速凍結する。